

## 救急外来受診の手引き(14)

### 慢性肝臓病のある患者さんへ

公立世羅中央病院 院長 末廣 眞一

今回は持病として慢性の肝臓病を持っている人が経験する、すぐに救急外来を受診した方がよい症状について解説いたします。慢性の肝臓病は慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝がありますが、脂肪肝については緊急を要するアクシデントは起こりませんが、病気というより「肥満」と同じく生活習慣による体質と考えるべきです。

慢性肝炎と肝硬変の原因は、B型C型肝炎ウイルスあるいはアルコールによるものが95%を占めます。

では、肝臓病を持つ人はどんな症状が起きるのでしょうか？

#### 1. 腹痛

肝臓病を持つ人は肝臓でのガストリンという胃酸分泌を促進する消化管ホルモンの分解能が低いので高く

ガストリンは胃に作用して胃潰瘍、十二指腸潰瘍になりやすい状態です。潰瘍は穿孔して腹膜炎を生じる場合もあり、突然腹痛を感じて、次第にひどくなるような場合は救急外来を受診すべきです。

#### 2. 吐血

肝臓病を持つ人はいつ血を吐いてもおかしくありません。線維化の強い慢性肝炎や肝硬変を持つ人では内臓の血管が怒張しており、特に食道や胃粘膜の血管が胃酸で溶かされて破裂しやすい状態になっています。食道の血管が破裂しますと赤い血を、胃の血管が破裂しますと黒い血を吐きます。特に食道出血の場合は量が多く、ショック状態になりやすいので、救急外来を受診すべきです。

#### 3. 下血

胃や食道の上部消化管からじわじわと少しずつ出血する場合には、便に血が混じる下血となります。見た目は真っ黒ですが血とは判断できない場合も多いものです。顔色が悪くて、フラフラする場合には貧血が進行していますので、夜間でも救急外来を受診すべきです。

#### 4. 腹部膨満

肝臓病を持つ人で進行してくると腹部が膨満してきます。これはお腹の中に腹水がたまってきて起こる症状です。緊急性はありませんので救急外来受診の必要性はありませんが、かかりつけを持たない方は早めに医師に相談した方が良いでしょう。

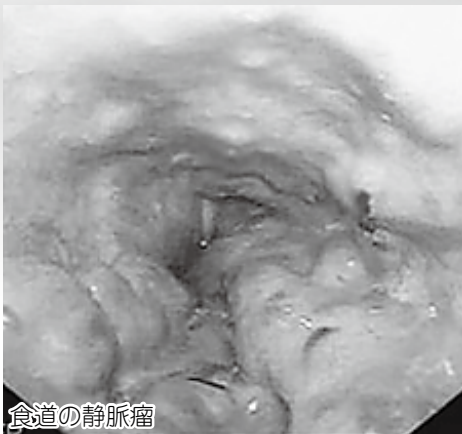
#### 5. 黄疸

慢性の肝臓病を持つ人で目に見える黄疸はあまり遭遇しませんが、もし黄疸がはっきりわかる場合は肝不全ということになり、生命の危険が迫っておりますので、救急外来を受診してください。

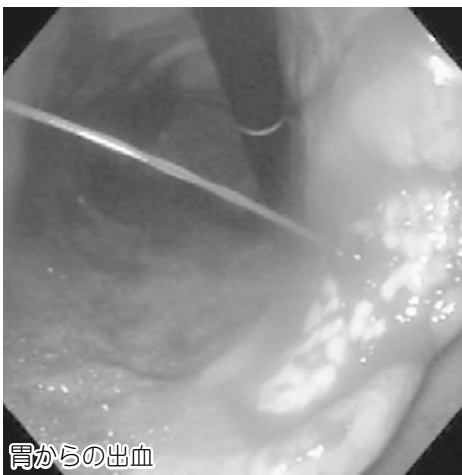
#### 6. 意識障害

肝臓の悪い人では時々、訳の解らないことを言い出したり、変な行動をとったりすることがあります。これは肝性脳症という症状で、肝臓の機能低下でアンモニアなどの神経に有害な物質が血液中に増えて起こる症状であり、治療により劇的に改善します。早めの救急外来受診をお勧めします。

以上、慢性の肝臓病がある人の救急治療を要する症状についてご説明しましたが、ストレスやアルコール多飲などが症状を引き起こすことが多いので、肝臓が悪い方はくれぐれも日常生活に気を付けるようにお願いします。



食道の静脈瘤



胃からの出血

